

工	職	賃	金	賃	屋	燃 料			教 育 費		家 賃				
						薪 代	炭 代	電 料	石 油	中 學 校	小 學 校	下	中		
職	工	指 師	左 官	大 工	日 雇	下 女	下 男	石 油	電 料	炭 代	薪 代	中 學 校	小 學 校	下	中
一 枚	一 五〇	一 五〇	一 一〇	八〇	六 五	四	五	二 五	八〇	七 五	一 東 二	五	五〇	五	二 五
一	一 五〇		一	一	七〇	二 五	五	二 二	九〇	一 貫 一 五	一 五	六	五〇	三	二 二
一〇	八〇	八〇	八〇	八〇	六〇	三		二 二	一 一〇	一 貫 一 五				八	一 五
一 一〇	一 一五	一 一〇	一 一〇	一 一〇		二 五	五	二 二	六〇	一 貫 一 七	一 貫 一 東 二	二 一	一 五	〇 五	六
八〇	八 五	八〇	九〇	八〇	五〇	二〇	八〇	二〇	四〇	一 貫 〇 八	二 五	一 五	五〇	三	八
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	二〇	四〇	二〇	四 五	四 五		一〇	一	三	四
一 枚	一	七〇	七〇	六 五	四 五	五 五	七 五	二〇	六〇	一 貫 〇 八		二 五	五〇	二	八
一〇	一 一〇					五 五	五 五	二 〇	二 〇	二 五	一 貫 〇 八	二 五	五〇	二	八
一 六	一 一〇	九〇	八 五	八 五	六〇	三	四	三	九	二 五	二〇	二 五		四	六
一	一	一	一	八〇		四	七	二	六〇	一 貫 〇 九	三			三	五
八〇	九〇	七 五	九〇	九〇		四〇	九〇	二〇	七 三	十 貫 一 三 五 十 斤	十 貫 三 一 貫 〇 五			三	五
六 五	八〇	八〇	八〇	八〇		三	六	二〇	五〇				五〇	八〇	二〇

農家の一年

披三 片 山 滿 喜

一月食費	主 要 食 品										屋根葺
	豚 肉	鳥 肉	牛 肉	茄 子	大 根	砂 糖	清 酒	醬 油	味 噌	白 米	
六、五〇	二八	六〇	六〇	〇一三	〇三	二二	八〇	四 五	四 五	二六	八〇
六、五	二	六	五	〇三	〇三	二八	八〇	二 六	五 五	二六	一
五	〇、二〇	〇、四 五	〇、三 五	〇一	十 本 〇七	二 四		三〇	五〇	二 五	
五、一〇			三 一	四 個 〇一	一 貫 〇 五	三〇		二 八	四〇	二 二	一 一 五
	七 一	五〇	二 五	十 個 〇三	十 本 〇 五	二 六	五 八	三〇	四〇	二 四	八〇
	一 八	三 五	三 五	〇、三 五	十 本 〇 五	二 五	五 五	二 四	三 六	三 三	五〇
六	二 五	四〇	三 五	十 個 二 五	十 本 一 一	三 三	七〇	五〇	四〇	二 四	六〇
五、一〇	二 六	五〇	四〇	一 貫 一 一	一 貫 〇 七	二 一		二 五	三〇	三 三	八 五
	一 八	二 八	三 三	〇一	六 本 〇一	二 四		三 三	五〇	三 三	九〇
六			一 六	十 個 〇 五	十 本 一 〇	二 一	四 五	二 一	四 三	三 三	一 八 五
五	二〇	五〇	四〇	十 個 〇 五	五 本 〇 一	二 五	六	二 五	六〇	三 三	八〇

農家の一年と申しましたもその範囲が廣うございますのに私どもの調べましたのは本當に僅かの地方の事でしかも私どもはよく通じませんのでとても充分と云ふ譯には参りません、又農家と申

しましても生活の程度も一樣ではございませんから一概に論ずることは出来ません。

で一年中どんな仕事を致しますものか月の順序に従ひましてごつとお話し致そうと存じます。

お正月一二三の三日間や七草十五日などのお祝ひには何處も同じ事でございます。一二月の寒い間は農と致しては一體に暇な時でございますましてまあ女の方でございますなら家で裁縫や機織りなどを致して居りますし男の方でございますましたなら薪木を取つたり畑仕事位でございます。それも雪國などでございますとそれさへも出来かねますので繩をなつたり草鞋を作つたり致して過して居ります。

三四月の暖い時になりますと畑も麥畑や菜種畑の草取りやら種蒔きやらを致しますし田の方も田打ちが始まつて参りましたところ忙しうなつて参るのでございます。

五月に入りますと苗代を作つたり又茶摘みも始つて参りますし春蠶の用意も致さなければなりませんのでだんだん忙しうなつて参ります、こゝで一寸お茶について申しあげて見ますとこれは埼玉でのお話でございますが峽山茶の出来ます所などではお茶の摘み頃はおさつや馬鈴薯などをふかしたり鹽煮にしておきましてお辨當にもすれば朝飯の代りにもなし子供のお八ツにもすると云ふ有様で主婦はそれを致しておいて茶摘みへと出掛けるのでございますこれは一方から云ひますとこの地方ではお米よりもお茶を作る方を本職と致しますので經濟の方からも來て居りませうが又

一方に大變忙しい爲めに勝手許の手續をはぶくからでもございませう。

又静岡地方ではこの頃は小學校の兒童までも學校を休んでめくら縞の着物に赤だすきそれに手拭を姉様かぶりの有様で茶つみに出掛けます、又女中たちも主家を暇取つて出掛けますのでこの時分になりますと主家は女中がなくて困ると云ふ話でございます、この地方ではかやうに盛に致しますがその摘んだ茶は青葉を自家で製する處もいくらありますが多くは青葉の儘を會社に出すと云ふ話でございます、一寸これは餘分の話でございますがこの會社では今はどうか存じませんが一時着色した茶を外國へ出した奸商があつたとか申します爲めに外國人の手で經營せられて居る會社もあると云ふ話でございます。

近頃外交問題がどうやらと云ふ事をよくききますがこれらの事も大に注意を要する事であらうと思はれます。

さて六月になりましたは最も多忙な絶頂でございますして畑の麥刈りに續きまして田の方では田植が始りますしその間には春蠶も上ると云ふので人手はいくらあつても足りないと思ふ有様でございます。

まあ養蠶について申して見ますとこの頃のは四十日位であります。毛蠶の中は桑をきざんでやりますしその與へる度數も一晝夜に七八回もやりますのでかなり忙しうございますが蠶産の枚數

が少うございますからそんなでもありませんがだんだん上簇前になつてまゐりまして蠶産の數もふえますし興へる桑の量も度數も増しますとその骨折りは一通りではございません、夜の桑つけを致しますにはその飼ひ方の少い家でございますとその時間を見計つて起きてやりますが大仕掛に致して居る家でございますとても人手が足りませんから十人十幾人と人を雇つて夜も交代に起きて居てこれらの事を致します。

雇はれました方では一日二三十錢から四五十錢位の賃金を貰ひまして終日手傳ひますのでございます、これら家では炊事掛りと養蠶掛りとを手分けを致しまして若し主婦が養蠶に精しくありませんれば炊事の方を雇人にたのみまして養蠶の方を手傳ひますそしてその間にも雇人たちがひもじくはないだらうか又は餘りつかれば致さないだらうかなどと主となつて事をする主婦の心づかひは一通りではございません。

又いよいよ蠶があたりますとその出來の工合と雇人たちの働きぶりによりましてそれぞれへ賃錢の外に祝儀と致しましてお金や反物などを送るのでございます、さて一般の農家ではこの忙しい絶頂の一日をどんなに過しますかと申しますと九州の佐賀地方では働きが烈しい爲めに一日に四度食事を致します朝はまだ暗い三時頃に起きまして昨夜の冷飯を茶漬に致してすまし男は野良へと出ますあとで主婦は朝飯をたきましてあり合せの野菜を勿論お砂糖などは用ひませずに煮し

めまして用意して居ますと十時頃にかへりまして家内一同朝飯を致します、あとかたづけをして今度は主婦も一緒に野良へ出かけます、お晝は二時頃にかへつて朝飯の残りを以てお茶漬けですまします、若し遠い所に参ります時は朝食後に出かけます時に、桶と申します竹であみました籠の様なものに入れお菜は香の物をそへて持つて参ります、この暑い真盛りは少し休みますが又一心に働きまして日暮れに歸ります、もし家に夕飯の仕度をする人のない時には主婦は少し先きにかへりまして仕度をしてかへりをまち受けて居ります、夕食後はお湯に入りまして一日のつかれを休めます、この地方では五百戸位の村でございまして一度に二三十人位入れる所の共同のお風呂を作りまして變り番にそれをたてゝ入れますこれがこの地方の女たちの一つの交際となるのでございます。

それから三重地方に参りますと大抵前と同じでございしますが一日にこの地方では食事を五度も致します、それは夜業の後に今一度夜食を致すのでございます、なほこの外にお八ツに芋をむし豆をいりなど致しまして野良に持つて行く事もございます。

七八月頃は暑い盛りも汗をながしまして田の草を取るのでもございます、その間も旱魃や風雨の心配は一通りではございません又夏蠶や秋蠶もこの間に少しの暇を盗みまして生活の助けにと一生懸命に働きます、お盆には十三日から十六日まで一家内参りまして佛祭りを致しまして親類縁者

が互に呼んだり呼ばれたり致しまして楽しく過します。

九月は又風の心配はございますが割合に暇な時で鎮守のお祭りなども多くこの時に営まれて
村芝居などを致しまして楽しむのでございます、しかし此の頃と申しましても主婦はやはりまだ
手許のやうやう見える位に起きまして飯の用意を致し又別に老人でもありまして炊事をしてくれ
るものがあります時には朝飯前に山に草刈りに行つたり又朝賣りと申しまして町に近い村では野
菜を町に賣りに参ります朝飯をすました後日中は田畑に出て働ひたり家に居て洗濯をしたり
針仕事などを致します、夜も相當の夜業を致しましてその地方の物産となるものもこんな夜業の
中に出来る事がございます、例へて申して見ますと仙臺の名産の蚊帳又は疊表などでござい
十月になりますと再び稻刈りや蕎麥刈りで多忙な時期となりますがそれと同時に取り入れと云ふ
楽しみが伴ふて居りますから喜び喜び働くのでございます。

十一月にはついで晩ての稻刈りや米拵へと云ひまして靱をこいで俵につめたり又收穫物を賣り
出すのもこの時で一年中の主なる収入はこゝに始めて得らるのでございますそして麥蒔きもこ
の日に致すのでこの十一月の二月は田植えについて一年中の忙しい時でございます。

十二月になりますと最早や年の暮れで一年間の家計の整理や田舎のお百姓の事ですから襪の洗
濯も致さなければなりません、又家内の煤はきや大掃除を致したりお餅をついたり致しまして年

を迎へる用意をするのでございます。

只今まで申し述べましたやうに農家では寒い間を除いた外は殆ど一年中いそがはしう暮しますが
扱て此の間の子女の教育はどういふ風に致して居るかと申しますと老人などのある家では幼児は
重に此の人達が守りを致しますが老人のない家では重に最もいそがしい時分で致し方のない時に
は小さい子守りを雇つたり致します、時によりましてある地方では子供を一人家に残しまして田
舎でございしますので別に戸締りなども致しませんがその儘主婦は野良の仕事に出かけるのでござ
いますそれで若しはひ廻はる様な子供でございましたらその危険をさげる爲めに柱に紐で長く
ゝつておいて野良に出かけます、その爲めにある家ではくゝつておいた紐が解けて椽側から轉が
りおちて思はぬ一生の不具者となつたと云ふ様な氣の毒な實例もございす、又ある所では子供
を畚に入れて一緒に野良につれて行きました暑い日にまだ幼い幼児を照りつけに致しました
爲めに死んだといふ悲惨なお話もございす、幼児期の子供のお話はこんなものでございす
學齡期位の子供になりますとお守りは勿論其の外の食事の拵へなど家の役にたちますので此等の
農家の一般の傾きと致しましてなるべくならば義務教育さへも逃れやうと致します、それで小學
校では農繁期には授業の繰りかへなどを致して便宜をつけて居ます、中流以上の家庭でございま
したならば主婦が家に居つて家内の事の指圖などに口を送りますから割合に子女の教育に盡す事

が出来ますが前申ました様な中流以下の家庭におきましては全く子女の教育などは放任せられて顧る者も御座いません、けれども主婦が女子の教育の爲に外に出ませんでしたらば其の代りに仕事を少くするか人を雇ふかを致さなければなりませんから到底生計を維持する事がむづかしくなります、それで之れを兩立させ様と致しますには何か外によい方法を考へなければなりません、これはお互に一つの問題と致しまして研究するのに十分の価値のある事だと存じます、私共が考へますには近頃ぼつ／＼見えます所の子女預り所の様なものを村の有力者や教育ある婦人の手によりまして設計せられる様になりますれば如何かと存じます、しかしこんな預所など、申ししましても眞の骨肉の間である祖母が孫に對する情とはちがつて居まして叱るにしても教へるにしても愛情がこもつて居りまして自然に子供をよい方に導いて行くことが出来ます、ことに無教育な無考へな若い雇人などに任せておくのとは大變な違ひがございます、それから考へて見ましても我が國の家族制度は經濟上からも教育上からもまことに結構な事だと存じます、次ぎに經濟状態はどんなかと申しますと前に述べました事によつてあらまはわかりでせうがおもな収入は麥の收穫後の六月頃及び十一月頃の米や豆の取れた時位のもので御座います、其の外農家では大抵副業と致しまして養蠶を致しますのでこれからの収入も御座います、そんな風でございますから官吏のやうに日に定つた収入のある様な經濟状態とは全く違つて居ります、そこで地方の師範や實

科女學校での家事の教授などにも大變差異が出来て参ります、一例を擧て見ますれば家計簿記をつけさせますにも収入時や出入状態の異なるのに注意を要します割烹を致しますにも金錢の方はその出入が少なう御座います爲めに非常に尊ばれて居りますが品物の方は割合に輕視するといふ風があります、それで材料費と致しまして金錢を集めますよりも自家にありあまつて居る野菜などを材料とする方が一般父兄にも大に喜ばれますし割合に材料も豊かに得られます、従つて献立などもこれらの物を多く用ひて出来る様に注意が必要となりますこれと同じ様に裁縫の方に於きましてもシャツやズボン下の様なものを教へるよりも農家に日常必要な仕事着や脚股引類をよく教へ込む方が遙かによろしからうと存じます、一體家事の教授は實際問題でございまして其の地方々に適應したものでなくてはならないと存じますのにたゞ一都會を標準と致しました家事を知りましてそれをまたそのまゝ地方にあてはめ様とする様な無謀なものでは一向役だちません。只今申しあげました事は誠にざつとで御座いますが幾らなりとも農家の有様が御わかりなりました此むきの御研究上の御参考の一端にもなりましたならば幸と存じます。